

くまびょう

96号

NEWS

くまびょう
NEWS2005年
6月1日

[発行所]

国立病院機構熊本医療センター
(前 国立熊本病院)〒860-0008
熊本市二の丸1番5号
TEL (096) 353-6501代
FAX (096) 325-2519

臨床研修の充実に向けて

国立病院機構
熊本医療センター
病院長

宮崎 久義

新臨床研修制度が始まって2年目を迎えます。国立病院機構熊本医療センターは単独型研修病院として、また、熊本大学の協力型研修病院として、その内容の充実に努めています。現在1期生、2期生合わせて24名の方が研修中で、来年は約40名の研修を担当することになりそうです。

熊本県域における臨床研修の説明会につきましては別途案内があると思いますが、国立病院機構としましては九州ブロック事務所主催の初期臨床研修合同説明会を下記の要領で開催することとなりました。当院も参加して研修プログラム等の説明を行う予定です。来春医学部卒業予定の方がお知り合いにいらっしゃいましたら、参加を勧めて頂きます様ご案内致します。

また、国立病院機構熊本医療センターの見学を希望

される方はいつでも御相談に応じます。担当は国立病院機構熊本医療センター管理課庶務係長(TEL 096-353-6501 内線745)です。御遠慮なくお申し付け下さい。

なお、平成18年度は初期臨床研修の1期生が研修を終了します。その後、いわゆる後期臨床研修が始まります。国立病院機構熊本医療センターとしましては、熊本大学との共同での研修と国立病院機構ネットワークを生かした後期臨床研修の両方のプログラムを作成し、準備しているところです。

国立病院機構としては3～5年の研修期間を設け、専門医資格をとれるプログラムが計画されています。そのなかで希望者には国立がんセンター、国立循環器病センター等のナショナルセンターにおける研修、米国のVA Hospitalへの留学の機会が用意されています。

国立病院機構本部九州ブロック事務所としては7月30日(土)、国立病院機構九州医療センターで合同の説明会を開催するべく、準備をすすめているところです。追って詳細につきましては後日、ご案内致します。

国立病院機構九州ブロック初期臨床研修合同説明会開催のご案内

■参加病院

国立病院機構小倉病院

国立病院機構九州医療センター

国立病院機構福岡東医療センター

国立病院機構佐賀病院

国立病院機構嬉野医療センター

国立病院機構長崎医療センター

国立病院機構熊本医療センター

国立病院機構大分医療センター

国立病院機構別府医療センター

国立病院機構九州循環器病センター

国立病院機構関門医療センター

(他 協力型又は協力施設 7病院)

■日 時 平成17年6月4日(土) 13時～17時

■会 場 国立病院機構九州医療センター 講堂(外来棟3F)
福岡市中央区地行浜1-8-1■お問い合わせ(主催) 国立病院機構本部九州ブロック事務所(医療課) Tel: 092-852-1734
事前登録は ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~kyushu/>



「みんなに支えられての開業2年生」



山崎 内科
院長 山崎 雅史

熊本大学医学部附属病院消化器科を退職し、花畑町で開業し、今春にて2年目（2年生）になりました。

当院のコンセプトは「肝臓専門クリニックと街の保健室」です。この1年間さまざまな経験をしたことを振り返ってみたいと思います。

(Case report形式にて)

症例1) 50歳代男性

奥様が自己免疫性肝炎にて長期 follow 中、私はお酒が大好きだから肝臓が心配と精査希望。得意の採血とエコーにて「アルコール性脂肪肝+肝炎」の診断。節酒を心掛けてもらいながら時々採血し

指導しておりました。9月になり咳が続き、風邪が治らない。と訴えられ、変だなと思い胸写をとると上葉に陰が見える。慌てて、国立病院（どうしてもこう呼んでしまいます。すみません）へご紹介。呼吸器内科にて肺癌の疑いとの診断。その後外科にて手術。発見が遅くならなくてほっとしました。

症例2) 60歳代男性

昼食を食べようと交通センターの方へ歩いていると「先生、気分が悪そうな人がいます。」と近所の患者さんから声をかけられた。走って行ってみるとやや浮浪者風の人がやや酩酊状態で胸を押さえている。『どうしよう』と勝手に自問する。声をかけ、脈をとるとバイタルはしっかりしている。「むかむかする。」との訴えがあり、周りの人に救急車を呼んでもらい、やはり近くの国立病院へ。

症例3) 50歳代男性

C型肝硬変とうつ病の患者さん。肝硬変のコントロールはまあまあなのだが、うつ病が悪化すると内服を間違えられ、肝性脳症まで悪化してしまう。やはり、当院での外来治療は困難。これまた国立病院へ。

症例は続くが報告はこれくらいにしておきます。

当院は街の中の無床診療所で、多科にわたる患者さんや急変している患者さんには十分対応ができません。

これからも当院を助ける中核医療機関として国立病院機構熊本医療センターの皆様には頑張ってもらいたいと思います。

今後ともよろしくお願い致します。

第7回医療マネジメント学会学術総会開催のお知らせ

～安全かつ最良最適な医療の提供を目指して～

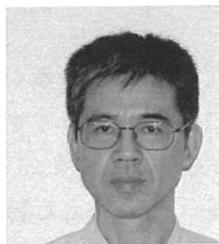
本拠地を熊本においた全国学会です。クリティカルパス、医療安全、医療連携等、医療の現場における課題の研究、発表を行っています。現在事前参加登録受付中です。御参加を歓迎します。

- | | |
|---|--|
| <p>会 長：国立病院機構九州医療センター院長 朔 元則
会 期：2005年6月24日（金）・25日（土）
会 場：福岡国際会議場（福岡市博多区石城町2-1）
福岡サンパレス（福岡市博多区築港本町2-1）</p> <p>◆基調講演
医療の質の向上を求めて－医療マネジメント学会の活動から－
医療マネジメント学会理事長 宮崎 久義</p> <p>◆会長講演
最良最適な医療の提供をめざして
国立病院機構九州医療センター院長 朔 元則</p> <p>◆特別講演1
医療制度の課題と展望
国際医療福祉大学学長 谷 修一</p> <p>◆特別講演2（市民公開講座）
少子高齢社会における年金・医療問題
慶應義塾大学教授 飯野 靖四</p> | <p>◆招待講演
心のミステリー 作家 夏樹 静子</p> <p>◆特別パネルディスカッション
わかりやすい人事が病院を変える</p> <p>◆クリティカルパス総合講座（14題）</p> <p>◆クリティカルパス作成実践コーナー</p> <p>◆シンポジウム</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新人看護師の1年目の看護実践能力 2. 個人情報としての診療情報-医療の現場で、診療記録、看護記録等の問題は？ 3. 効率的な医療安全管理へのストラテジー 4. DPC時代における医療材料マネジメント <p>◆パネルディスカッション 新しいチーム医療</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策におけるICTの役割－アウトブレイク時の院内感染対策 2. NSTに期待される役割と実践 |
|---|--|

2005年 診療科紹介 (21)

心臓血管センター(2)

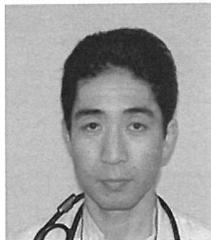
心臓血管外科



毛井 純一
心臓血管外科、冠動脈外科、
心臓弁膜症手術、大動脈外科
日本胸部外科学会指導医
日本外科学会指導医
日本循環器学会専門医
日本心臓血管外科学会専門医
熊本大学心臓血管外科学教室非常勤講師



森山 周二
心臓血管外科
日本外科学会専門医
日本胸部外科学会認定医
日本心臓血管外科学会専門医



岡本 健
心臓血管外科
日本外科学会専門医
日本消化器外科学会認定医



高本 やよい
心臓血管外科

特色

狭心症、心筋梗塞への冠動脈バイパス手術、心臓弁膜症手術、胸部大動脈疾患手術では高齢化に伴い腎機能障害、呼吸機能障害、脳血管障害などHigh Risk症例が大半を占め低侵襲、機能温存手術が行われています。

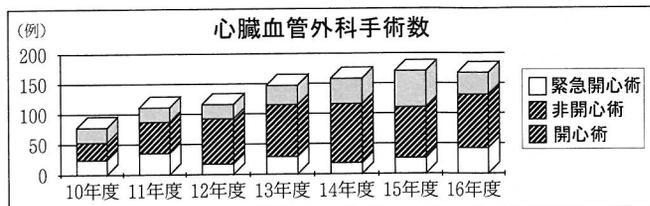
平成16年度はさらに重症化（心機能低下例・緊急手術数の増大）、高齢化しているのが当院の特徴です。

- 冠動脈バイパス術（CABG）：人工心肺を使用せず拍動のままで行う冠動脈バイパス手術（Off pump CABG、OPCAB）は予定手術の85%、緊急手術でも64%に行われています。
平成16年度単独CABG症例：41例（45～90歳：平均年齢 70.2歳）
- 心臓弁膜症：単手術のみの症例は39%で、その他は複合弁膜症、胸部大動脈手術、不整脈手術などを併置しています。
平成16年度弁膜症手術症例：16例（57～83歳：平均年齢71.8歳。緊急手術4、待機手術12例）
- 胸部大動脈手術：急性大動脈解離、胸部大動脈瘤破裂などの緊急手術が76%で大半が緊急手術です。
急性大動脈解離（緊急手術） 15例（41～83歳：平均年齢64.5歳、在院死亡1例：6.7%）
胸部大動脈瘤破裂（緊急手術） 7例（72～87歳：平均年齢75.9歳、在院死亡3例：42.9%）
待機胸部大動脈瘤 7例（46～81歳：平均年齢70.6歳、在院死亡1例：14.3%）
平成16年度胸部大動脈手術合計 29例（41～83歳：平均年齢 68.7歳）

- その他の開心術：肺動脈血栓塞栓症、心室破裂(中隔穿孔)、先天性心疾患、心臓内腫瘍
開心術では42%が準緊急・緊急手術で39%が75歳以上（80歳以上 19%）と高齢者手術が非常に多いことが当院の特徴であり、低侵襲手術の適応の拡大や緊急手術への対応が今後の課題となっています。低侵襲手術・機能温存手術としてはOPCABや僧帽弁の弁形成術、開胸下ステントグラフト（大動脈疾患）のほか、昨年より精巧血管造影システムの導入、スタッフ修練の終了（1人増員）により血管内大動脈瘤治療（経カテーテルステントグラフト留置術）を開始し、これまでに4例が行われ、十分速やかな回復で退院されています。

診療実績：手術症例数

平成16年度は重症・緊急開心術手術症例の割合が多くなり、その分、非開心術症例（腹部大動脈瘤、閉塞性動脈硬化症による下肢バイパス症例）は減少しました。



臨床研究

循環器病委託研究16公-9課題名「虚血性心疾患の手術死亡率および合併症発症率改善のための多施設共同研究」を行っています。

新任職員紹介



感覚器センター
耳鼻咽喉科
おやまた ゆき お
小山田 幸 夫

この4月より耳鼻咽喉科医として赴任致しました小山田幸夫です。福岡県出身ですが、大学も医師としての仕事もずっと熊本でやってきました。

私は平成9年熊本大学医学部卒業後、熊本大学医学部耳鼻咽喉科に入局しました。平成10年から1年間熊本市民病院で研修を行いました。その後、熊本大学耳鼻咽喉科大学院でマルチスライスヘリカルCTを用いた反回神経麻痺患者の喉頭画像解析についての研究を行

いました。

平成15年から同附属病院耳鼻咽喉科に勤務し、この度国立病院機構熊本医療センター感覚器センター耳鼻咽喉科でお世話になることとなりました。

耳鼻咽喉科領域は自分で直接見ることができないため、病気を認識することが難しく、放置してしまいがちです。患者さんとのコミュニケーション不足がそれを悪化させることもあります。私はそのようなことがないように気軽に何でも相談できる雰囲気作りを心掛けたいと思います。

大学病院では診療や手術、研究に従事する中で多くの患者さんを診させて頂きました。これからはそこで得たものを少しでも還元できれば、と考えています。

初心を忘れることなく、患者さんを一番に考えた診療ができるようがんばってまいりますのでよろしくお願い致します。



感覚器センター
皮膚科
まきの たか みつ
牧 野 貴 充

熊本出身の29歳。長崎の青雲中学、高校で厳しい寮生活を経験しました。熊本大学医学部時代はハンドボールに熱中していました。熊本市で開業している父の影響もあり、皮膚科教室に入局し、熊本大学附属病院で

1年間研修し、その後、熊本労災病院で2年間、麻生飯塚病院で2年間勤務しました。皮膚感染症、熱傷、アレルギー疾患など、全般的に携わってきました。

地元の国立病院機構熊本医療センターで勤務することに期待と希望で一杯です。オープン病床があると聞き、今まで経験はありませんが、開業の先生方と密な連携ができるかと期待しています。他科の先生方からも気軽に紹介して頂きたいと思います。

医師6年目で、まだまだ未熟ですが、専門分野を探し出すことと、“使える皮膚科医”を目指して頑張りたいと思います。

よろしくお願い致します。



消化器病センター
消化器科
くら もと たか こ
藏 元 誠 子

はじめまして。平成17年4月から消化器内科に勤務することになりました藏元誠子と申します。私は平成14年に熊本大学医学部附属病院第一内科に入局し、平成16年より消化器内科を専攻することになりました。

国立病院機構熊本医療センターは症例数が多く救急患者も多いので忙しいですが、興味深い症例が多く大変勉強になります。また全診療科を備えているので消化器以外の臓器合併症があってもいろいろ他科に相談でき有難く思います。

医者としては4年目、消化器内科医としてはまだ駆け出しの状態であり、まだまだ未熟ではありますが、患者様、そのご家族にも満足していただけるような診療を目指し頑張りたいと思います。

ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い致します。



消化器病センター
消化器科

まき 牧 よう 曜 子

牧 曜子です。今年で3年目になりました。熊本大学病院、済生会熊本病院を経て、このたび4月から消

化器病センターで勤務しています。1、2年目は消化器を離れて呼吸器、腎臓、循環器の研修もしました。3年目になり、本腰をいれて消化器疾患にたずさわるといなり、やっと病院には慣れてきましたが、救急も外来も検査もなにかもが忙しく、目の回る思いです。消化器疾患も多いですが、それ以外にも様々な患者さんに関わることができ、吸収すべきことが山のようにあるな、と痛感させられています。

至らない点が多々ありますので、ご指導よろしくお願いたします。



精神・神経科

よし だ びん 吉 田 敏 知

平成17年4月から精神科に勤務することとなりました吉田敏知です。

平成14年に熊本大学医学部卒業後、熊本大学医学部附属病院第一内科に入局しました。2年間内科での研修を終え、平成16年に同病院神経精神科に入局し、精

神科2年目に国立病院機構熊本医療センターに勤務することになりました。

国立病院機構熊本医療センターは県下有数の救急病院であり、多くの様々な精神科救急の患者様が受診されると伺っています。数多くの症例に触れることで自らの経験、能力を向上させることができると思っており、精神科医師として重要な年になると考えています。

また当病院には大学の同級生、内科時代の同僚、部活の先輩、後輩がいるため、良い雰囲気の中で仕事ができることと思います。不慣れな面が多々あるため、ご迷惑をかける事があるかもしれませんが、少しずつでも成長できるよう頑張りたいと思っています。

どうぞご指導よろしくお願いたします。



精神・神経科

つ だ み 津 田 美 佳 子

はじめまして。津田美佳子と申します。

医師として3年目で4月から国立病院機構熊本医療センターでお世話になることとなりました。所属は精

神科なのですが、4、5月の2ヶ月間は内科でお世話になりました。

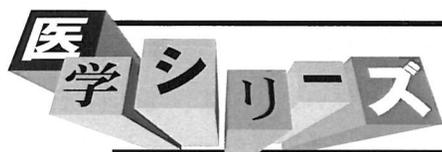
国立病院機構熊本医療センターにきてまず驚いたのは時間の流れのスピードでした。めまぐるしく、常に走っているような印象で、圧倒されています。分からないことばかりでお役に立てず、申し訳なく思っておりますが、病院の流れ、皆さんの連携に少しでも加わっていけたらと思っております。頑張っていきたいと思

ご指導、ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願致します。

ホームページをご利用下さい。診療、研修、研究など情報満載です。

国立病院機構熊本医療センター ホームページアドレス

<http://www.hosp.go.jp/~knh/>



最近のトピックス

Trichophyton tonsurans 感染症—格闘家白癬



感覚器センター
皮膚科医長

萱島 研一

真菌が起す皮膚の病気として、カンジダ症や足白癬がよく知られていますが、近年、高等学校の柔道部員やレスリング部員の間で多発しているTrichophyton tonsurans感染症を知っておく必要があります。この感染症は、皮膚糸状菌症の一つなのですが、皮膚糸状菌症を起こす菌の種類は大きく三つに分けることができます。Trichophyton属が14種類、Microsporum属が20種類、それとEpidermophyton属が1種類です。

Trichophyton tonsuransは、最初のTrichophyton属に入るもので好ヒト性であり、南北アメリカやヨーロッパでは頭部白癬の原因菌として広く知られているものです。また、1992年以降は、格闘技の競技者に集団発生する格闘家白癬 (tinea gladiatorum) の原因菌として世界各国から分離例が報告されています。

日本では最近までTrichophyton tonsuransが分離されることは稀だったのですが、2001年以降、格闘技競技者の白癬集団発生例が相次いで報告されるようになってきました。この菌は、主に頭部白癬、体部白癬や爪白癬を引き起こすわけですが、特に体部白癬の症状は多彩となっています。臨床像としましては、指頭大から鶏卵大までの鱗屑を伴う環状の紅斑で中心治癒傾向を示す例や、貨幣状湿疹や乾癬によく似た例、あるいは紅斑も不整形で淡い色調を呈し、白癬を疑いにくい例もあります。

この菌による皮疹の分布ですが、特に顔、耳、項部、頸部、肩、腕に好発する傾向があります。

なぜならば、これらの部位は、タックルをする場合に擦れたり、マットや柔道着などで擦れ易い部位に概ね一致しているからなのです。

頭部での症状としましては、ケルスス禿瘡が有名ですが、毛包が開大して黒い点 (black dot) としてみえるタイプが多いとされています。この場合、自覚症状はごく軽いものであるか、全く示さないものとなります。このため、自覚症状が軽く少数の黒点が散在するだけのような場合では、診断がかなり難しくなってしまう。

さらに、この菌は明らかな皮疹は示さないけれども頭髪に入り込んで、感染源として重要となる無症候性キャリアの状態になることが知られています。

本症の診断にはKOH法 (鱗屑などをスライドガラスの上のせ水酸化カリウム溶液に浸した後に顕微鏡で菌要素を見つける方法です) が必要となります。頭部の場合は、黒点を取り出して顕微鏡で観察し、毛内性に直径5マイクロメートル内外の大きな孢子様の菌要素を確認できれば本症の可能性が高いといえます。ただし、菌の同定のためには培養が必須となります。

治療ですが、体部白癬の場合には通常抗真菌剤の外用のみでよいのですが、軟毛に菌が存在する場合や頭部白癬の場合には、内服が必要となります。Trichophyton tonsurans感染症では予防も大切で、体が接触する練習や試合を避けることや、ヘッドギアやブラシなどの共有を避けることが薦められています。また、練習着、ヘッドギアを毎日交換して洗浄すること、練習の前後にシャワーを使用することも薦められています。しかし、実際問題として学校でシャワーをすること自体難しい場合が多く、また、清潔につとめることに関しても現場での指導者や競技者自身の自覚、理解が必要であり、本症に関しての啓蒙が必要であることは言うに及ばないところです。

■原稿を募集致します■

登録医の先生の投稿を歓迎致します。400～800字程度を基準にお願い致します。

送付先 〒860-0008 熊本市二の丸1-5

国立病院機構熊本医療センター 『くまびょうNEWS』編集室まで

■ 研修のご案内 ■

第77回 最新医学の知識講座（無料）

〔日本医師会生涯教育講座 5 単位認定〕

日時▶平成17年6月1日（水）19：00～21：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

座長 熊本市医師会理事 園田 寛

「脳神経外科の進歩」

熊本大学大学院医学薬学研究部脳神経外科学教授 倉津 純一

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第193回 初期治療講座（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座 5 単位認定〕

日時▶平成17年6月11日（土）15：00～18：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「腎不全の診断と治療」

座長 熊本市医師会 田添 昇

1. 腎機能検査について

熊本大学医学部附属病院腎臓内科 江田 幸政

2. 急性腎不全の診断と治療

熊本大学医学部附属病院腎臓内科講師 井上 武明

3. 慢性腎不全の診断と治療

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター腎センター長 富田 正郎

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費20,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は会費5,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

第46回 三木会（無料）

（糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座 3 単位認定〕

日時▶平成17年6月16日（木）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 高脂血症を考える－現代人の食卓事情－

国立病院機構熊本医療センター 児玉 章子、市原 ゆかり、高橋 毅、東 輝一郎、小堀 祥三

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター内科医長 小堀 祥三 東 輝一郎 TEL 096-353-6501（代表）内線796

第77回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座 3 単位認定〕

日時▶平成17年6月20日（月）19：00～20：30

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

1. 呼吸器内科による胸部X線写真供覧

国立病院機構熊本医療センター呼吸器センター呼吸器内科医長 森松 嘉孝

2. 持ち込み症例の検討

3. 症例呈示「全身に皮下膿瘍を合併した糖尿病の1例」

国立病院機構熊本医療センター総合医療センター内分泌・代謝内科 市原ゆかり

4. ミニレクチャー「脳梗塞の検査（神経超音波検査を中心に）」

国立病院機構熊本医療センター脳神経センター神経内科 幸崎弥之助

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター副院長 河野 文夫 TEL 096-353-6501（代表）FAX 096-325-2519

第70回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成17年6月22日（水）18：30～20：00

場所▶国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

「精神科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター精神・神経科医長 渡邊健次郎

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急救命士、救急隊員、事務部門等全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるよう配慮した内容にしています。

〔問合せ先〕 国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501（代表）内線263 096-353-3515（直通）

平成 17 年

研修日程表

6 月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

6月	研修ホール	会議室	ほか
1日(水)	19:00~21:00 第77回 最新医学の知識講座 座長 熊本市医師会理事 熊本大学大学院医学薬学研究部脳神経外科教授 「脳神経外科の進歩」	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 園田 寛 倉津 純一 16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
2日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
3日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
4日(土)	9:30~16:00 第19回 ナースのための心電図セミナー(会費制) 〈講演〉心電図の基礎 各種心疾患における心電図不整脈 〈実習〉心電計の取り扱い方	国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 宮尾 雄治 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 末藤内科循環器科医長 末藤 久和 国立病院機構熊本医療センター循環器科医長 藤本 和輝 国立病院機構熊本医療センター循環器科 村上 和憲 国立病院機構熊本医療センター循環器科 梶原 一郎 国立病院機構熊本医療センター循環器科 大庭 圭介 国立病院機構熊本医療センター循環器科 新造 竜也	
6日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
7日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
8日(水)		16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
9日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
10日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
11日(土)	15:00~18:00 第193回 初期治療講座《会員制》 座長 熊本市医師会 「腎不全の診断と治療」 1. 腎機能検査について 2. 急性腎不全の診断と治療 3. 慢性腎不全の診断と治療	[日本医師会生涯教育講座5単位認定] 熊本大学医学部附属病院腎臓内科 江田 幸政 熊本大学医学部附属病院腎臓内科講師 井上 武明 国立病院機構熊本医療センター腎センター長 富田 正郎	
12日(日)	13:30~16:30 第98回 看護卒後研修(会費制) 「個人情報保護法と看護情報」	鹿児島大学医学部保健学科看護情報学助教授 宇都由美子 (※5月28日 変更分)	
13日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
14日(火)	19:00~20:30 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C 19~21 泌・放射線科合同ウログラム C
15日(水)	13:00~17:00 糖尿病教室 18:30~20:00 病薬連携研修会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	12~13 糖尿病教室 研食 17:00 消化器疾患カンファレンス C
16日(木)	19:30~21:30 第40回 有病者歯科医療講演会 座長 熊本市歯科医師会会長 古賀 明 「摂食嚥下障害の診断と治療」 熊本大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科講師 蛟島 靖治	19:00~20:30 第46回 三木会 (糖尿病、高脂血症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
17日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
18日(土)	14:00~16:00 第182回 滅菌消毒法講座《会員制》 「手術器材の管理」	福岡大学病院手術部看護師長 坂本 真美	10~12 楽しく学ぶ基礎看護技術講座 学校
20日(月)	19:00~20:30 第77回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座3単位認定]		8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
21日(火)		18:00~19:30 血液病懇話会(図)	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
22日(水)	18:30~20:00 第70回 救急症例検討会 「精神科救急疾患」	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
23日(木)	18:30~21:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会	19:00~21:00 熊本脳神経疾患懇話会	7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C
24日(金)			8:00 消化器病研究会 C 8:00 麻酔科症例検討会 手 8:00 皮膚科症例検討会 臨 17~18 救急部カンファレンス C
27日(月)			8:00 MGH症例検討会 C 16~18 泌尿器科病棟カンファレンス 別6 17~18 小児科カンファレンス 外来
28日(火)	18:30~20:30 血液研究班月例会	18:00~19:30 血液病懇話会(図) 19:00~21:00 小児科火曜会	8:00 救急部カンファレンス C 15~18 外科術前後症例検討会 C
29日(水)	19:30~21:00 臨床口腔外科研究会	16:00~18:00 皮膚科組織検討会(図)	17:00 消化器疾患カンファレンス C
30日(木)			7:50 整形外科症例検討会 C 17~19 循環器カンファレンス C

(図) 図書室 C 病院本館2階カンファレンス 手術室控室 臨 臨床研究部会議室 別6 別6病棟 外来 小児科外来 学校 看護学校 研食 研修棟食堂
問い合わせ先 〒860-0008 熊本市二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター-地域医療研修センター
TEL 096-353-6501(代)内線263 096-353-3515(直通)